

平成21年度 病害虫発生予報 第9号

平成21年12月18日
栃木県農業環境指導センター

灰色かび病に注意しましょう！

予想期間 12月下旬～1月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並。(±)
 - ・今後、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
- (3) 対 策
- ・ハウス内の低温多湿が発生助長要因となるので、下葉を取り除き風通しを良くするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
 - ・発病果実等は伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。
 - ・発生初期にセイビアーフロアブル20、サンヨール等を散布する。
 - ・降雨が続いて湿度が高い場合は、ロブラールくん煙剤等の使用も効果的である。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並。(±)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並もしくは低い見込みである。(±)
- (3) 対 策
- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適切な温度管理やかん水を行う。
 - ・発生を予防するため、硫黄粒剤によるくん煙を行う。
 - ・発生初期にサンヨール、ダイマジン等を葉裏にもよくかかるように散布する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は多い。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並もしくは低い見込みである。(±)
- (3) 対 策
- ・発生が見られた場合、下葉かきを行い発生密度を下げ、エコピタ液剤[適用害虫：ナミハダニ]等の気門封鎖系薬剤をスポット散布するか、ダニトロンフロアブル、カネマイトフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・春先の多発を防ぐため、厳寒期に防除を徹底することが重要である。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや多い。(+)
 - ・今後、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
- (3) 対 策
- ・ハウス内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
 - ・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。
 - ・防除は予防を基本とし、暖房機を利用したボトキラー水和剤[適用作物：野菜類]のダクト内投入を行う。
 - ・発生初期に、フルピカフロアブル、ポリオキシシナール水溶剤等を散布する。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや多い。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並もしくは低い見込みである。(±)
- (3) 対 策
- ・生育に応じて葉かきを実施し、葉裏に寄生した幼虫や蛹を除去する。除去した葉は埋設やビニール袋等で密封し枯死させてから処理する。

- ・施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類を捕殺する。
 - ・粘着くん液剤等を定期的に散布し、コナジラミ類を低密度に抑える。
 - ・タバココナジラミの発生が見られる場合は、ベストガード水溶剤、サンマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備考
- ・ベストガード水溶剤は、散布後マルハナバチを放飼できるまでの期間の目安が10日なので注意する。

6 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや多い。(+)
 - ・今後、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
- (3) 対 策
- ・ハウス内が多湿にならないよう、日中に適度な換気を行う。
 - ・発生初期に、ストロビーフロアブル、ポリオキシソルボン水溶剤等を散布する。

7 きく 白さび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は多い。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並もしくは低い見込みである。(±)
- (3) 対 策
- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適切な温度管理やかん水を行う。
 - ・発生を予防するため、硫黄粒剤によるくん煙を行う。
 - ・発生が見られる場合はE B I剤、ストロビーフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備考
- ・ストロビーフロアブルは、高温多湿条件下の散布で薬害が生じる場合があるので注意する。

8 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	アブラムシ類	少	少	きゅうり	アザミウマ類	やや少	やや少
	コナジラミ類	平年並	平年並		コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	葉かび病	少	やや少	なら	アザミウマ類	やや多	平年並
きゅうり	べと病	少	やや少	きく	ハダニ類	多	多

農薬を上手に使いこなしましょう！

ハウス内で薬剤を散布するときは、午前中のうちに葉裏にも薬剤がよくかかるように散布する。同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。薬剤散布については、ミツバチ、マルハナバチに対する安全日数を十分考慮する。

イネ縞葉枯病に注意しましょう！

11月に実施した越冬前密度調査では、ウンカ類幼虫の生息密度は、平年比4.2倍でした。また、ヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率が県中南部の一部で高くなっています(12月4日に植物防疫ニュース(速報No.10)を発表しました)。

県南部を中心に発生の拡大が懸念されますので、来年の作付に向けた防除対策を実施しましょう。

1か月気象予報(予報期間12月12日から1月11日 12月11日気象庁発表)

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は平年並または低い確率ともに40%、2週目は低い確率50%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
気 温	40%	40%	20%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。

当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012